

学 校 経 営 の 基 本 的 な 考 え 方				総合自己	総合学校関係者 評価			
<p>【1】スクールミッション（目指す学校像）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「人ありて技術」を教育理念とし、先進技術を含めた高い専門力を身に付けさせ、心身ともに健全で調和のとれた人間性を目指す学校 ○多様な選択科目が設定された教育課程により、国公立大学を含めた進学や、専門性を活かした就職が可能なハイブリッドな工業教育を目指す学校 ○広い視野を持ち、本県や日本、国際社会の持続可能な発展に貢献できる人材の育成を目指す学校 <p>【2】グラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像）</p> <p>「人ありて技術」の教育理念の基、情報技術をベースとした専門高校として、豊かな心・確かな学力・専門的な知識・技能の向上に努め、将来を担うスペシャリストの育成、地域産業を担う人材の育成、人間性豊かな職業人の育成を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的に考え行動し、自己教育力をもつ生徒 ○仲間と協力し、健康で心豊かな生徒 ○豊かな感性を持ち、文化や技術を創り出す生徒 				3.4	4.0			
番号	重点目標	達成手段	○：成果と ●：課題	自己評価	学校関係者 評価	学校関係者 コメント		
1	学力向上の推進と進路実現	<p>(1) 学習習慣の育成と授業力向上の推進</p> <p>①学習の仕方の指導（学校・家庭での学習の習慣化、ICT活用）</p> <p>②授業の積極的参加</p> <p>③授業研究会の充実</p> <p>④教育課程の工夫改善</p> <p>⑤ICT教育の充実（BYOD、Classi等）</p> <p>⑥授業改善と学習評価</p>	<p>○入力定着しているクラスについては、学習状況が把握でき、学習の振り返りが行えている。</p> <p>●自立学習調査が目標とする学習意欲と学力の向上へ成果として見られていない。現状の調査方法では今の状況に限界を感じる。</p> <p>○インターンシップや進路ガイダンス、3年生の進路決定等がよい契機となった。</p> <p>○学習に対する意識が向上した生徒が全体の雰囲気を変えつつある。</p> <p>○評定や出席、進路マップ等の結果と進路実現の実態との関連を見て、3学期の指導に生かしたい。</p> <p>●進路未決定者、これから受験（就職試験）に臨む生徒に、注力していく。</p> <p>○一年次での基礎基本の積み重ねが二年次の公募で結果となって現れ、生徒達の作品制作への意欲が増している。</p> <p>○授業態度はまずまず落ち着いている。主体的に学習できる生徒と、促されても学習が進まない生徒の2層に分かれている。</p> <p>●家庭等での自立学習の時間が極端に少なくなっている。</p> <p>○定期考査や資格試験への取組を通じて、質の高い学習の定着を図りたい。</p> <p>○前期6/5（月）～6/16日（金）、後期10/23（月）～11/2（木）に、全職員研究授業週間通して実施し、授業力向上および授業改善に努めた。</p> <p>●朝課外の縮小・廃止が叫ばれる中、教育課程の工夫が必要</p> <p>○令和6年度から観点別評価から評定を算出する。</p> <p>○佐土原高校の進路推薦規定など類型での取り決めについて、目線合わせを行えた。</p> <p>○令和6年度入学生より、カリキュラムを改変した。新設科目「ロボット制御技術」・「選択実習」に変更した。実習内容検討委員会で座学と実習のつながりを検証し行き、新カリキュラムでの充実を図りたい。</p> <p>○大学入試に向け、学んでいない教科をClassiの学習動画を使って学んだ生徒がいた。</p> <p>●生徒が自ら学ぶツールとして浸透していない。ベネッセに講演を依頼。</p> <p>●活用すると成果が期待できる学習方法を生徒に伝えていくことを検討したい。</p> <p>○教科・学科の協力があがり、最後の研修を無事に終えることができた。</p> <p>○クライアントワークを授業に積極的に取り入れることによって、生徒達の自己有用感と職業観が育ってきている。</p> <p>●実習室のパソコンの不具合が多く、実習に影響が出ている。</p>	2.5	3.0	2.7	3.5	4
				3.0	3.0	<p>※</p> <p>(1)</p> <p>①学校・家庭での学習の習慣化の中で、ICT活用は、生徒達にとって今やもっとも身近な情報通信技術であることから、学習意欲を持たせるのに非常に有効であると思ったところです。併せて、先生方のICT活用による学習への対応等も大切になってくると感じました。</p> <p>①学習状況の把握や振り返りができる仕組みは素晴らしいと思います。一方で学習習慣の定着が主体的にできていない生徒さんに対して、どのようにアプローチしていくのが今度の課題かと思っています。進路の方向性を早めに決定することで生徒本人の学習意欲にも繋がるものと思います。教育課程の工夫や授業研究会を充実させるなど、先生方の授業の質を向上させる取り組みについても継続いただき、生徒の主体的な学習意欲につながることを期待します。</p> <p>①自立学習時間調査については、成果が見られず生徒・職員の負担感を懸念する評価があることから、そのあり方を検討した方がよいと思われます。</p> <p>① 学習態度が二層に分かれているという評価の一方で、意識が向上した生徒が全体の雰囲気を変えつつあるという評価もあるようですので、如何にそのような雰囲気作りができるかということが一つのポイントだと感じます。</p> <p>④電子機械については、6年度入校生からカリキュラムを改変するという事で、座学と実習がさらに効果的に連携することでより実践的な教育となることを期待します。</p> <p>⑤Classi等のICTを活用した学習は、距離や時間等の制約を受けにくく、個人に応じた有効な手段であるので、さらなる活用が図られることを期待します。</p> <p>⑥クライアントワークは自己有用感のみならず職業人としての責任感やコミュニケーション能力の育成にも役立っていると思われ、大変よい取り組みだと考えます。</p>		

番号	重点目標	達成手段	○:成果と●:課題	自己評定	学校関係者評定	学校関係者コメント
1	学力向上の推進と進路実現	(2) 資格・検定取得、コンクール等の参加推進 ①個人指導と特別指導	<p>【電子機械科】 ○計算技術検定3級に1年生18名(前期不合格者)が受験し17名が合格した。 ○基礎製図検定に2年生62名が受験し41名が合格した。 ○技能検定3級に希望者「機械検査」に2名「普通旋盤」に6名受験し全員合格した。3学期には「機械検査」に19名、「機械保全」に1名「シーケンス制御」に5名「普通旋盤」に6名が受験予定である。</p> <p>【通信工学科】 ・第二種電気工事士(2年) ○筆記試験の結果は合格数/受験数=19名/29名 [65.5%] ○R06年度は上期で受験できる体制(SKTの計画や2年の実習項目等)を検討中。 ・第二級デジタル通信(2年) ○受験対策として、SKTと授業内容に配慮し指導をしている。ただし、CBT方式の受験は、生徒自身が受験日を選べるため、受験日や結果通知を把握することが難しい。</p> <p>【情報技術科】 ○情報処理技術者試験は3年生が基本情報技術者試験に15名、2年生は34名が合格した。 ○ITパスポート試験に1名、情報セキュリティマネジメント試験に1名合格した。 ○基本情報技術者試験と情報セキュリティマネジメント試験において、今年度から受験回数や試験内容が変更された。引き続き動向を注視して対応していきたい。 ○ジュニアマイスター懸賞制度に、3年生:ゴールドを5名、シルバーを8名が取得した。 ○パソコン甲子園モバイル部門グランプリ受賞</p> <p>【産業デザイン科】 ○各種ポスターコンクール等での上位入賞があり、表彰式にも参加した。夏休みだけでなく、年間を通して公募へチャレンジするよう促す。 ●2年生36名が9月23日にillustratorクリエイター能力認定試験を本校で受験、合格率50%と低かった。今回取得できなかった生徒は3年の夏前に再度受験する機会を設ける予定。試験直前の追い込み対策をする。</p>	3.0	※ 4.0	(2) ①佐土原高校の生徒募集案内には、「主な就職先」、「主な進学先」及び「在学中に取得できる資格や公募」が記載されているが、中でも「在学中に取得できる資格や公募」では、資格取得を目指して多くの生徒が頑張っていることや、公募においても、パソコン甲子園2023グランプリ受賞など結果がでることに感心したところです。 ①資格取得への取り組みについては、各科ともに積極的にチャレンジされている様子を伺うことができます。生徒にとっては、成功体験を積む良い機会ですし、就職活動などでのアピールアイテムにもなります。継続した資格取得への促進をお願いします。 ①ジュニアマイスター顕彰制度や各種ポスターコンクール等での素晴らしい結果も挙げられており、生徒の努力に加えて先生方のご指導もあってのこととお察しします。 ①各科ともに積極的に資格取得やコンクール参加に取り組んでおられる上に、パソコン甲子園でのグランプリ受賞などの輝かしい成果も出ており素晴らしいと思います。成果が自信やさらなる向上心につながることや就職に際しての武器になることから継続した取り組みを期待しています。 ① 検定試験は引き続き積極的に行ってほしい。いつでもどのような形で、資格が活かされるかはわかりませんが、資格は持っておいた方が必ず役に立つと思います。進学希望者に対しての英検、TOEICにも力を入れてほしい。
		②さくじらタイムの充実	○学校行事等の変更もありましたが、計画通りに進めることができた。	3.0		

番号	重点目標	達成手段	○：成果と ●：課題	自己評定	学校関係者評定	学校関係者コメント
1	<p>学力向上の推進と進路実現</p>	<p>(3) キャリア教育の推進、ものづくり教育の推進</p> <p>①就職・進路面談・指導、進路手引き等の活用</p>	<p>○性格や適正を考えさせ、学校生活をどう送るか考える機会になった</p> <p>●振り返りの時間まで確保することが困難だった。</p> <p>●データベースとしての機能を見直し、各学年の進路に役立つ者としてキャリアプランニングの在り方を再検討</p> <p>○就職支援コーディネータの河口さんにサポートや、訪問した企業の見学を実施。</p> <p>○進路学習を実施し、学習と進路に対する意識付けを行った。</p> <p>○進路に関する情報を随時提供し、目標を早期に明確化させる。</p> <p>○格取得や検定に積極的に挑戦させたい。</p> <p>○担任や学科、進路指導部から適宜情報提供していただき、進路について前向きに考える姿勢が育っている。来年度の進路選択に向けて意識高揚を図る。</p> <p>○学科の準備と指導があり、生徒にとっては非常に有意義な活動となった。</p> <p>○1年生に対して県内企業見学(3社)を実施した。企業局から施設見学の申し入れがあり9月14日(木)の午前中に綾第二発電所の見学を実施した。</p> <p>○2年生のインターンシップを3日間[10/25(水)~27(金)]実施した。生徒にとって充実した経験となったようである。</p> <p>○企業との信頼関係を維持するために、インターンシップを通して就業体験をさせ、就職後のミスマッチがないように生徒への進路指導の充実を図りたい。</p> <p>○土日祝を活用して大学や専門学校のオープンキャンパスに参加する生徒が数名いた。美術系大学等説明会を通して、1・2年生が進路について関心を持ち考える大きな機会ができた。</p> <p>●卒業制作のスケジュールと入試対策を充実させるための手立てを考える必要がある。</p>	3.6	3.8	<p>※</p> <p>3.0</p> <p>(3)</p> <p>①1学年時から、進路に関する情報提供がされていることや県内企業見学の実施など、将来生徒に合った就職、進学ができるように、生徒本人の進路決定能力を磨くことに早くから努められていると思ったところです。</p> <p>①コロナの5類移行により、各企業におけるインターンシップも活発になっていると思います。生徒さんにはこの貴重な経験を多く積んでいただき、自身の職業観を養っていただきたいと思います。企業としては入社後のミスマッチを防ぐ機会でもありますので、インターン実施にあたっては、単なる補助作業の繰り返しとならないように、実施プログラムを企業側と事前に整合することも重要かと思います。</p> <p>①進学・就職先の進路決定に当たっては、生徒個人のみならず家族の意向や本人の能力・適性等様々な要因が関係し難しい中で、様々な取り組みがなされていることを評価します。</p> <p>①就職しても、すぐに離職する若者が社会的に多いと聞きます。就職することも大切ですが、就職後に生徒自身がスキルを十分に生かして成長してほしいです。</p> <p>②企業見学やインターンシップは、各業種・業態のイメージを掴むことにより将来的なミスマッチを防ぐとともに、県内就職を促進するための重要な取り組みだと考えますので、引き続き充実されることを期待します。また、大学入試も多様化し、佐土原高校の進学率も上がっているかと思っています。地元の大学に進学し更なる知識と技術を身に付け地元宮崎に貢献するような生徒の育成を希望します。</p>
		<p>②他団体との連携</p>	<p>○1月に2年生を対象とした、企業見学を予定している。また県外企業から講師を招聘し専門に対する意識を変革できるような授業を計画中である。</p> <p>○企業見学、外部講師招聘などの事業を通して、生徒の進路に対する意識を向上させたい。</p> <p>○今年度の宮崎大学と大分大学の結果に甘んじることなく、1、2年生に学力や実績を付けさせていきたい。特に来年度は宮崎大学の受験制度が変わるため、それに対応した指導をしていき、合格者を増やしていきたい。</p> <p>○宮崎大学「ひらめきときめきサイエンス」に2年進学希望生徒を参加させた。来年度以降もぜひ参加し、オープンキャンパスも含め講習会等、校内外への積極的な参加を促していく。</p> <p>○クライアントワークや地域行事などは、どうしても関係部活動の顧問に負担が大きいため内容を精査しながら、生徒の学習に効果的なものを精選していきたい。</p>	4.0		

番号	重点目標	達成手段	○:成果と●:課題	自己評定		学校関係者評定	学校関係者コメント
1		(4) 読書活動の推進 ①朝の10分間読書、 図書委員会の充実	○副担任を中心に指導を依頼 ○学期はじめや定期テスト後に、図書委員も活用して朝の読書への取り組みを呼びかけていきたい。 ○図書委員が主体となる図書館運営に取り組んだ。(文化祭・企画展示・本の配置替え等) ○毎月約50冊の資料を、分野別のバランスを考慮して受け入れている。 ○教科指導や生徒指導に必要な図書の要望を随時募集する。 ○新聞の一面・関連本の展示を始めた。学級文庫を新設した。図書便りの発行	3.0	3.0	※ 3.0	(4) ①朝の10分間読書は、授業の始まりに生徒皆が心を落ち着かせ、また脳の動きは活発にするなどの効果が生まれると思ったところです。 ①新聞の一面・関連本の展示を始めるなどの新しい取り組みも始められており、今後の読書習慣へ繋げていただきたいと思います。 ①通学後の慌ただしい雰囲気の中で、気持ちを落ち着けて集中する時間があるというのは、その後の授業への入り方にも効果があると思いますし、社会人になっても必要な読解力や論理的思考を高める意味でも効果があると思いますので、是非継続していただきたいです。 ①活字を読む機会が減少し、解読力が低下していると聞きます。非常に良い取り組みだと思います。

番号	重点目標	達成手段	○:成果と ●:課題	自己評定	学校関係者評定	学校関係者コメント
2	人間力の育成	(1)生徒の悩みを早期に発見し、迅速に対応する。 ① 日常の観察	○ 定例カウンセリング委員会の充実・保健室・生徒指導部との情報交換、問題の早期発見に努める。 ○ 教育相談旬間の面談などによるスクリーニングを充実させる ● 相談室登校や不登校状態を繰り返す生徒が見られた。 ● 人間関係が上手く作れず、集団の中での離合集散が見られ問題を抱える生徒が見られた。	3.1	3.2	3.4
		① いじめアンケート	○ いじめ・スマホアンケートを GoogleForms で行った。これまでの集計の手間、レスポンスの遅さが解消された。 ○ いじめ等について、教職員間での情報共有や連携を密にしながら早期対応、指導を心がけたい。 ○ 面談などにより生徒理解に努めた。 ○ 教育相談部や養護教諭と連携しながら、対応を誤らないように様々な視点から観察していく。			
		② 情報共有	○ クラスを超える問題に関係する職員でケース会議を開き対応を検討した。 ○ 「カウンセリングの基本」について職員研修を実施した ● 家庭環境に起因した問題も多い。保護者との連携、関わり方に課題がある。 ○ 担任・副担任、学科職員、保健室や教育相談等学校全体で丁寧に対応している。今後は、外部機関や関係各所とも連携しながら、精神面の成長を促していきたい。			
④ LHR 活用 (人権教育)	○ 1年生で「性の多様性 (LGBTQ)」、2年生では「生命の安全教育」講話を実施した。 ○ より良い人間関係作りのためのピア・サポートを継続する。成長過程に応じた人権教育を継続する。 ● 「人権」についての知識や理解にとどまらず、日常生活で人権を意識し、他者を思いやる言動ができる生徒の育成が課題。	3.7	3.7	3.6		
⑤ 特別支援教育 (通級指導)	○ 生活上又は学習上の困難を抱える生徒について支援において、中間テストに期間中に、発達障がいへの理解に関する職員研修を行った ○ 「通級による指導」は現在1年生1名月2回放課後に行っている。その都度、学校生活を振り返りながら自己理解やストレスへの対処の仕方等を学んでいる。 ○ 通級希望者が出にくい状況であるので通級に対する認知度を高め、必要な生徒が利用しやすいしくみを整えたい。 ● 通級による指導内容を効果的に扱える教材の作成が課題である。					
(2) 規範意識を高め、生活のリズムを確立する。 ① あいさつ	○ 11月28日(火)～12月1日(金)の期末テストの期間中にあいさつ運動を実施した。2年の保護者および職員を含めて約40名に参加協力いただいた。昨年度に比べ、生徒のあいさつが良いと評価をいただいた。 ● 保護者の参加数を増やすために、あんしんメールを活用し、複数回の案内を実施したい。					
② 時間を守る	○ 全校集会時や学年集会時において、集合時間の厳守を徹底した。5分前行動を呼びかけている。	3.7	3.7	3.6		
③ 校内清掃の専心	○ 取組みについては概ね良好であるが、外庭の除草作業は職員のマンパワーも必要。 ○ 環境美化部の担当者を中心に渡り廊下に設置。美化委員会でひまわりプロジェクトに取組んだ。 ● 苗の購入時に配達不可となり取りに行く必要あり。					
						<p>(1)</p> <p>① 様々な悩みを抱える生徒さんの変化への気づき、対応のスピード感が重要だと考えます。御校の強みである ICT を活用し、聞き取り調査・カウンセリング・モニタリングなどの継続をお願いします。</p> <p>① 佐土原高校には問題のある生徒に寄り添う先生方が多いと聞きます。特に発達障害までいかずとも、限りなくグレーに近い生徒もいるかと思いますが、しっかりと対策・対応されていると思います。</p> <p>③ 生徒の悩みに早期対応、早期対応するため、積極的な取組がされているが、生徒及びその保護者、先生方が抵抗なく生徒の悩みに対して、相談できる体制づくりが非常に大事であると考えます。</p> <p>④ 性的マイノリティや障がい者等の人権については、正しく理解し他者を認め合えるようになるための啓発が重要ですので、生徒に対する教育とともに教職員の理解の深化や知識のアップデートのための研修も継続していただきたいと思います。</p> <p>④ ゲーム(PCやスマホ)やユーチューブなどの影響もあるかと思えます。人権を無視した発言や行動をよくニュースや新聞等で問題になっているのを拝見します。難しい問題とは思いますが、引続きのご指導をお願いします。</p> <p>(2)</p> <p>① 私の会社の前を佐土原高校生が自転車などで通りますが挨拶をすると、必ず返ってきます。良いことだと思います。</p> <p>① 貴校を訪問するたびに、すれ違う生徒さんから元気なあいさつをいただいて気持ち良く感じています。PTA活動を含め日頃からの教育の成果だと評価しています。</p> <p>① 評議員会や採用活動のため御校を訪問させていただく機会がございすが、その度に生徒さんの元気な挨拶は大変気持ちよく感じます。地道なPTA活動の素晴らしい成果だと思います。</p> <p>① 朝の挨拶はする方もされる方も気持ちがいいものです。子供たちの見守り活動の中でも、元気よく大きな挨拶をする子供が増えました。大人も見習いたいものです。</p> <p>① 整理整頓された、清潔感のある校舎・教室だと感じています。気持ちよく使うことの喜びの醸成を引き続きお願いします。</p>

番号	重点目標	達成手段	○:成果と●:課題	自己評定	学校関係者評定	学校関係者コメント			
2	人間力の育成	(3) 相手を思いやる心を育て、望ましい人間関係を醸成する。 ① 1年 MHR、	○情報モラル講話・人権講話・性教育講話等の実施することで、人としてのあり方・生き方を考える機会が得られた。 ●スマートフォンの校内使用や授業中のクロームブックの目的外使用があった。	3.0	3.2	3.7	(3) ①銀麗祭では、各クラスの持ち味や生徒の知恵や工夫を生かした、手作り感満載の素晴らしいイベントでした。生徒が楽しんで運営をされていたのが印象的でした。 ①問題行動を起こす生徒は、どこにでも一定数はいるかと思えます。再発の防止を徹底してほしい。		
		②学校行事の工夫	・学年集会の計画・実施 ○集会や学校行事に対する取り組みは良好。年度末に向けて、学校への帰属意識やクラスとしての一体感を感じさせていきたい。				3.2	4.0	②銀麗祭のクラス展示では、各展示会場ごとに、生徒皆で知恵を出し合いながら会場づくりがしてあり、それぞれが楽しい企画となっていました。生徒達にとってもいい思い出になるんだろうと思ったところです。
		③生徒会活動活性化	○定数を大きく超える18名の立候補があった。立ち会い演説会は立候補者のみでオンライン+放送で行ったためスムーズに進んだ。来年度も多くの立候補者が出てくれるように、事前指導等を行ってきたい。 ○各種委員会は計画通りに実施した。						③生徒会への立候補が多数ということは積極性や意欲のある生徒が多いということとともに学校の雰囲気がオープンだということでもあると思いますので、是非そのような環境を維持していただきたいと期待します。
(4) 部活動の充実	○部活動の派遣については、端末利用してスムーズな運営ができた。 ●派遣規定が現在の部活動派遣に適合しづらい部分があった。	3.0	4.0	(4) ・全国高校総体での男子テニス部の大活躍は、佐土原高校生一人一人にとっても学校活動への意欲が高まり、また、学校全体の活性化をも促すと感じた。 ・男子のテニスやウエイトリフティングなど優秀な成績を収めていて学校や地域の活気につながっていると思います。同時に、めざましい活躍はなくとも地道に懸命に努力している生徒たちも讃えてあげたいと思います。					
3	体育・健康教育安全指導の推進 交通事故ゼロ けが10%減 体力県平均以上	(1) 基本的な生活習慣の育成に努め、健康や安全への意識を高める	○すべての健康診断を6月までに終えることができた。学校医より指摘を受けた生徒については、治療勧告書を配布済みである。早めに医療機関を受診するよう促していきたい。 ●体育的行事や修学旅行前の健康相談を行い、体調面やケガの把握を行った。感染症の流行が予想される時期での修学旅行を控えているため、感染症対策（予防接種の推奨など）を今後も呼びかけていきたい。	4.0	4.0	3.8	(1) ①新型コロナの第5類移行により、体育大会や部活動の制限も緩和され、活動的になり喜ばしい限りです。感染拡大対策については引き続き実施をお願いします。		
		① 健康教育の推進 ② 新型コロナ対策	●コロナ感染者は減少したが、インフルエンザ感染者の増加がみられた(9月上旬と11月中旬)。 ●早めの対応で校内での流行は防止したが、3学期に向け、校内での感染拡大を防ぐための対策を検討していく必要がある。 ○感染症の影響による運動制限も解除され、通常の活動が活発化し、傷害報告も増加傾向にある。今後は啓発も含めて、活動時の傷害を減らす取り組みを行ってきたい。				①2月3月は受験等を含め大切な時期であり大変かと思いますが、引き続き感染拡大防止に努めてほしいです。 ①健康維持や安全の確保・けがの防止は生涯の課題であり、意識の啓発や受診習慣の定着が重要ですので、継続した取り組みをお願いします。 ②新型コロナやインフルに限らず、これからも新しい感染症は出てくる中で個人の感染防止には限界があり、いかに感染拡大を防止できるかが重要だと思います。そういう観点で体調不良時の早期受診や感染防止の基本行動などの啓発の継続が必要だと考えます。 ② コロナ感染者は減少したように見受けられますが、第5類になってから報道されなくなり、まだまだ感染者は増加傾向にあります。お互いに気をつけて下さい。		

番号	重点目標	達成手段	○:成果と●:課題	自己評定	学校関係者評定	学校関係者コメント
3	体育・健康教育安全指導の推進	(2) 体育学習の充実や運動の日常化を目指して、体力を向上させる。	○体育大会は、新型コロナウイルス感染症が5類移行により、1日開催で保護者の観戦についても制限なしで実施できた。	4.0	4.0	(2) ②テニス部やウエイトリフティング部の全国高校総体で、県勢初のシングルス優勝、ダブルス準優勝おめでとうございます。後輩が続けて優勝されることを祈っております。 ②各部の活動、実績については申し分ないと思います。全国だけでなく世界レベルの生徒もいると見聞しております。全体的な活発な活動と活躍を引き続き期待します。 ②部活動においては各部が素晴らしい結果を出され、校内のみならず、宮崎県内でも大きく取り上げられたものもありました。これからも明るい話題を提供していただきたいと願います。
	交通事故ゼロ	①体力向上プランの策定、体育的行事の充実	○テニス部やウエイトリフティング部が全国高校総体に出場、男子テニス部は県勢初の、男子シングルス優勝、男子ダブルス準優勝に輝いた。また、生産技術部は、全国ロボット競技、全国マイコンカーラリー競技、2023エコデンレース in 大阪（全国大会）等に出場するなど、県内外に発信できた。 ○令和5年度県高等学校1年生体育大会ウエイトリフティング競技が13年ぶりの団体優勝。 ○本校ラグビー部3年の飛高 青海君が、U18 西日本代表選手に選出されました。			
	けが10%減	①部活動の充実	○計画的に防災教育（防災講話、防災訓練）に取り組んだ。今後も専門機関（宮崎市消防局や民間団体）と連携をとり充実した取組みに努める。	4.0	4.0	(3) ①能登半島地震もあり、いつ・どこで大きな地震が発生してもおかしくはない状況にあると言えます。防災訓練などの防災意識向上への取り組みは、継続して実施ください。 ①防災については、地震・津波や水害に関する基礎知識とともに、いざという時の判断・行動が重要になりますので、自ら考えて判断するような実践的な訓練（ゲーム）も効果的だと考えます。 ①防災計画に計画的に取り組まれた事は、とても重要な事だと思います。いつ起きてもおかしくない状況の中、更なる防災意識の向上を期待します ②相手の不注意による事故もあるので十分気を付けてほしい。 ②通学自転車を利用している生徒も非常に多いと思うが、昨今の自転車事故の急増に伴い、自転車の交通ルールに厳しい目が向けられています。生徒の通学時の安全確保のためにも、引き続きの取り組みをお願いします。 ②着用義務となっているヘルメット着用を徹底したい。 ②生徒の運転マナーに関して苦情があるなど、御苦勞が多いと思います。自転車でも加害者になり得ること、被害者の場合を含めて、ひとたび事故を起こすと肉体的・精神的苦痛、経済的負担など、大きな影響があることをしっかり認識できるよう継続した取り組みをお願いします。 ③デジタル化が進む一方で、情報漏洩のリスクは高まっていきます。モラルの向上と併せて、不信なメールは開かないなどのリスク意識の向上施策も効果的かと思えます。 ③生まれたときからデジタルに囲まれている世代の生徒は、SNS等に対する警戒感が少ないが故にトラブルに巻き込まれ易いので、繰り返しの注意喚起をお願いしたいとともに、生徒のアドレスを把握しているのであれば標的型攻撃メール訓練も有効と考えます。
	体力県平均以上	(3) 安全教育の推進 ①学校安全教育推進(県指定)	○斜め横断や下り坂でのスピードを出す生徒が多く、苦情もあった。立ち番箇所を変えて指導をおこなった。交通委員会を通じて交通マナーの徹底を促していきたい。 ○自転車施錠点検を係・委員会を中心に行った。1学期より施錠している自転車がなくなった。 ●自転車盗難や未施錠が多かった			
		②交通事故撲滅	○いじめ・スマホアンケートを GoogleForms で行った。これまでの集計の手間、レスポンスの遅さが解消された。 ○いじめアンケートでは3名、からかい等の相談があった。担任・副担任等で素早く対応できた。 ●いじめ等について、今後も教職員間での情報共有や連携を密にしながら早期対応、指導を行う ○99%の生徒がスマホを所有している。いろいろなトラブルに巻き込まれていたことがあると回答していた。今後も、情報モラル教室等を行いスマホ・SNS使用方法について継続指導していきたい ○私物の端末および個人情報の取り扱いについて、ミライムにて周知を行った。			
	③情報漏洩防止	○部室周辺が若干整備不良の状態があり、部顧問の協力を得て改善した。 ○美化委員会でひまわりプロジェクトに取り組んだ。 ○美化委員会および担当職員の連携を密にし、今後も計画的に設置していきたい。 ●在庫管理を徹底すると共に用具や道具などを大事に使用する。不要な道具(各教室の掃除機など)は回収する。 ●現在、急病者の対応のために、体育館、保健室前に担架を設置している。今後は継続的に設置個数を増やしていく。予算との兼ね合いもあるが、今後は教室棟各階等、必要と思われる箇所に設置したいと考えている。また同様に車椅子の設置も進めていきたい。				
	④環境整備					

番号	重点目標	達成手段	○：成果と ●：課題	自己評定	学校関係者評定	学校関係者コメント	
4	家庭・地域との連携 (広報活動含む)	(1) 学校からの情報の発信に努め、学校教育への理解を深める。 ① オープンスクールの充実、メディア戦略、HP充実、広報等	○体験入学には、63校、中学生436名、保護者320名の参加(昨年60校、549名)。受付をすべて GoogleForms で行い、生徒個票を中学校に送付した。データ処理がより簡略化されたと思われる。 ○オープンキャンパスには、46校、中学生203名、保護者152名の参加(昨年37校、164名)。参加中学生アンケートでは98.8%の生徒が満足していた。受付をすべて GoogleForms で行い、生徒個票も当日手渡した。 ●受付で迷う中学生用の案内ブースがあればさらに円滑に受付できたと思われる。 ○安心安全メールが定着しクラス単位や事務等で使われている。 ○11月15日(水)に広報委員会を開き PTA 新聞に掲載する写真の選定を行った。 ○一学期に引き続き、HPの更新、プレスリリース、X(Twitter)、Instagram への投稿等、佐高生の取組や活躍の PR を行った。	3.5	3.5	3.8	①Forms による集計は非常に効率的だと言えます。本イベントだけでなく様々な場面でも有効に活用できると思います。 ①運動系だけでなく情報やデザインも含めて、生徒の活躍や地域との連携がテレビ・新聞等のメディアでよく取り上げられており、高校のイメージアップにもつながっていると思います。引き続き、積極的な情報発信を期待しています。佐土原高校の注目度は年々、上がっていると思います。引き続き魅力ある高校であることを期待します。
		(2) 地域の素材や人材を教育活動に積極的に活用する。 ① 大学、企業、県工業技術センター、佐土原町等等	○工業教育フェア、佐土原総合文化祭、こゆ朝市等に参加した。 ●様々なイベント参加依頼はあるが、全てに参加するのは困難なので、PRにつながるものを選んで参加したい。 ○宮崎大学「ひらめきときめきサイエンス」に2年進学希望生徒を参加させた。 ○実際に大学に行き、模擬授業を体験させることは進学意識の高揚に有効であると感じる。	4.0		4.0	(4) ①佐土原総合文化祭等の地域イベントへの参加は、生徒にとって、地域住民とのかかわりあいを学んだり、社会貢献の中で感謝されるなど、色々な体験をすることができると考える。地域住民にとっても、地元の高校生に対して関心を持つ機会となると考える。 ①宮崎大学イベントの参加が進学意欲につながることで、県外への人材流出防止へも繋がるのではと思います。来年度以降もぜひ参加していただきたいです。 ①工業技術センターには機械・電気やデザイン関連の研究員もおり様々な設備・機器もありますので、見学や実習などで御活用ください。
		(3) 海外との交流 ① 台湾東勢工業高級中等学校私立大同高級中学の交流活動推進	○12月4日(月)姉妹校の東勢工業中等高級学校とTV会議で交流を行った。参加した生徒は、台湾側11名、本校は国際交流部中心に10名でした。R6年5月に東勢工業高級中等学校が本校を訪問する予定。	3.0		3.3	①来年度については対面での交流予定とのことで、ぜひ交流を深めていただき、御校の生徒が「将来はグローバルで活躍したい」という動機につながっていくことを期待します。 ①海外との交流はグローバルな時代に適応できる人材の育成のほか、異文化の体験・理解による深みのある人間形成にも大きな意味を持つと思いますので継続した取り組みを期待します。